

## 平成 20 年度第 1 回会計学教育 FD/IT 活用研究委員会議事概要

- I. 日 時： 平成 20 年 6 月 14 日（土）午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで
- II. 会 場： 私情協事務局会議室
- III. 出席者： 岸田委員長、椎名副委員長、高松委員、黒葛委員、河崎委員、金川委員  
松本委員、木本委員、福浦委員  
事務局 井端事務局長、森下、恩田

### IV. 検討事項

#### 1. 会計学教育における学士力について

中教審 「学士課程教育の構築に向けて」（審議のまとめ） 平成 20 年 3 月 25 日を参考資料として会計学教育における学士力について、各委員の資料により具体的な内容を検討した。

#### 検討内容

- ① 会計力の概念規定の具体化と質保証に対する具体化が必要、参考資料②(会計学教育の授業)及び参考③(会計における「会計力」についてメモ)を参考に具体化策を検討したい。
- ② 水準を広域にすると拡散するので「会計学教育の学士力」の基準を学士課程に絞り、教育の質保証に対する固有の到達目標を明確にする必要がある。
- ③ 求められる会計知識は、責任の度合いに応じて普遍的な基礎能力(常識的な会計情報を読み見取る知識)を醸成する。その意味で、資料①社会人に求められる会計力ー学部教育の現状と問題提起)の「アカウンティングマインド」を謳っていく必要があり、対象を卒業後ビジネス社会に生きる者を対象としてはどうか。
- ④ 議論の集約は、スペシャリストではなく、ジェネラリストということになるので参考資料②「会計教育の授業」は、参考となる。
- ⑤ 卒業生の多くは企業の事務に従事者することから、すべての学部を対象にした各階層に沿ったコアカリキュラムを策定すべきではないか。
- ⑥ 教育も社会のニーズに対処すべきであり教養ある社会人の養成、教養的会計教育および会計教育利用者教育を重視すべきである。

#### 2. 検討の総括

資料⑦の会計力による会計教育の中の「会計力」のレベル水準について、これをレベル別に具体的に策定する。

- ①レベル 1 (アカウンティングマインドの理解)
- ②レベル 2 (会計系学部水準の理解)
  - ・概念的ではなく、実証により上記レベル水準を検証する。参考資料②(会計学の授業)
  - ・ICTを含めた学習成果を高次にするためにポートフォリオを策定する。
  - ・学士力についての測定基準を策定する必要がある。

### 3. その他

- ・ 次回の委員会開催の予定； 平成 20 年 8 月 18 日（月）午後 2 時から午後 4 時まで
- ・ 今後の研究パートを各委員で確認し○会計入門 ○財務会計 ○会計情報 ○管理会計について委員で分担することとした。
- ・ 今後の方針  
「学士力」の目標とともに「学士力」の測定する手段について具体的に策定する。  
次にそのための I T の利用方法、情報活用教育を検討する。

### 4. 次回の日程

8 月 1 8 日（月） 14 : 00 ~ 16 : 00

場所 私情協 会議室